



第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会

スポンサードレクチャー1

皮膚科診療における スキンケアの重要性 —アトピー性皮膚炎と酒皰—

2023. **10.28** (土)

12:55 – 13:55

第6会場 1F Room C-1

座長 **中原 剛士** 先生 九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野 教授

講演 **1** _____

アトピー性皮膚炎におけるスキンケアの役割
～患者さんへ外用指導を行っていますか?～

伊藤 友章 先生 東京医科大学皮膚科学分野 准教授

講演 **2** _____

酒皰の肌質とスキンケア

山崎 研志 先生 東北大学医学部 臨床教授(皮膚科学)

共催:第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会／グラフィラボラトリーズ株式会社

GRAFA
LABORATORIES

講演 1 アトピー性皮膚炎におけるスキンケアの役割

～患者さんへ外用指導を行っていますか？～

演者：伊藤 友章 先生

東京医科大学皮膚科学分野 准教授

アトピー性皮膚炎（以下AD）の病態は最近解明し、また三位一体病態論が提唱され、患者への説明時に大変役立っている。近年、生物学的製剤や低分子化合物の登場より、三位一体病態論の“かゆみ”と“アレルギー炎症”が大きく改善した。それによって、間接的にバリア機能異常が改善している。しかし、現在のところ新薬治療患者がバリア機能を改善させることは難しい。そのため、適切なスキンケア指導を行う必要がある。当科に受診するAD患者は、今まで外用療法やスキンケア指導を受けたことがない患者が多い。現在の情報化社会により、生物学的製剤や低分子化合物を希望される患者が増えている。皮膚科医として、アトピー性皮膚炎ガイドライン2021に従って、基本治療である外用療法やスキンケア指導を忘れてはいけない。本演題では、当科で行っている外用・スキンケア指導と、医薬品と医薬部外品スキンケア剤の基礎知識を紹介する。

講演 2 酒皰の肌質とスキンケア

演者：山崎 研志 先生

東北大学医学部 臨床教授（皮膚科学）

酒皰は顔面正中部を中心として左右対称性に分布する紅斑、毛細血管拡張、丘疹、膿疱をきたるいわゆる赤ら顔の疾患である。酒皰は環境の変化によって症候の消長が左右されるため、薬剤による治療と共に適切なスキンケアによる症候の増悪抑制を治療のために考える必要がある。酒皰患者の肌質は、一般的には経皮水分蒸散量の増加し角層水分量の低下した乾燥肌や敏感肌が多い。しかしながら、脂腺からの皮脂成分の亢進をきたしている脂性肌や脂性乾燥肌の方も多く、保湿剤の選択にも十分な工夫が必要である。保険診療でよく用いられるヘパリン類似物質は血管拡張を誘導する傾向がある。ワセリンは油性成分が多いために皮脂腺の閉塞をきたし、脂腺性毛包周囲の炎症を増長する可能性がある。酒皰患者の肌質に併せたスキンケアの推奨のためには、保険診療で処方できる保湿機能をもつ薬剤のみでは不十分と感ずることも多い。本講演では、酒皰の肌質について確認しながら、考えるべき酒皰のスキンケアについて考察する。